

地域資源の保全と

活用によるまちづくり

講演者 佐賀大学准教授 五十嵐 勉氏



現地勉強会で説明を受ける
神埼塾の会員たち



歴史景観に文化財価値

先人が汗で築いた

文化遺産

皆さんは、神埼市を訪れた人たちに
対していろいろな案内ができるようにな
るため、この神埼塾で神埼市の歴史を
学んできました。きょうは、歴史によっ
てつくられた文化や文化遺産をどうやっ
てまちづくりに活かしていくかについて話
します。

農村や山村、漁村に行くと、過去の
人たちが自然とかかわりながら、あるい
は生業をしながら風景、景色をつくつて
きたことがわかります。先人のつくった
その景観が私の研究分野です。
神埼市の南部にはクリーク地帯があ
り、その南には有明海に向かつて干拓地
と呼ばれる農地があります。それは先
人が干潟を農地に変えていった歴史で
す。北部へ行くと斜面に階段状の農地
があります。段々畑とか棚田です。こ
うした風景、景観は、これまで文化財
としてはほとんど認められてきませんで
した。

あなたもふるさと学芸員

「神埼塾」の講演から⑧

ところが、今や、ヨーロッパのブドウ畑
とか、ワイリピン^{（注）}のゴルジレラの棚田など、
人間がつくった農地、農業、あるいは農
村が世界遺産になる時代です。例えば、
吉野ヶ里遺跡はすばらしいが、それを
支えてきたのは周りの農地であり、農
業です。農地があつて初めてそこで権力
者が富を蓄え、国をつくつていったわけ
です。そういった当たり前の生業によつ
てつくられる風景、景観が今や文化遺
産としての価値を持ち始めました。

農村風景が世界遺産に

唐津市相知町の蔵野^{（注）}の棚田が、棚田
では初めて国の重要な文化的景観という
文化財に選定されました。こうした新
しい文化財の保護制度そのものが今、
まさに神埼市が目指そうとしている歴
史文化遺産を活かしたまちづくりの基
本です。第一級の国宝や遺跡がなくても、
農業を継続することで、その風景、歴
史文化遺産を守りながら地域づくりが
できる、それが文化財の新しい考え方
です。

神埼であれば旧長崎街道沿いの宿場
があります。あまり歴史的な建造物は
残っていませんが、こうした歴史的な町
並みも含めて、景観を守りながら美し
いまちづくりをしましょうというのが景
観法の趣旨です。文化財保護法と景観
法という二つの法律で、現在、重要な
景観の保護が図られています。

地域経済への効果重要

歴史文化遺産をみんなで見守っていくに
は当然産業を振興しなければなりません。
過去の遺物だけにすがつてわれわれ
は生きてはいけません。神埼市の
場合、代表的な観光地に吉野ヶ里遺跡、
秋には九年庵があります。二つとも重
要な観光拠点ですが、それが周りの人
たちにどれだけ経済効果を与えているで
しょうか。私はほとんどないのではない
かと思っています。

大型バスがたくさんやってきて2、3
時間で帰っていくのでは地域全体への波
及効果は生まれません。そんな観光じ
やなくて、私の言う観光は、当たり前
の農村風景に接し、そこで採れた農産
物を買ってもらう、その農産物を使つ
た料理を食べてもらう、そこで暮らして
いる人々と都市の住民が当たり前に
交流する、これをクリンツーリズムとい
いますが、これだと一人一人の農家に直接
お金が入ってきます。



倉谷棚田の柿園風景

今後はフットパス観光

座学から実践へ進もう

長崎街道だと、ここをたくさんの人に歩いてもらう。歩いたら疲れるから休んでもらう。休む場所としてカフェやレストランがあったり、古い土蔵を改造した休憩スポットがあったりとか、そんな足で歩き回るフットパス・ツーリズムを仕掛けていけば、持続的なまちづくりにつながります。

ではそうしたまちづくりを誰が担うのかという問題です。計画は行政とか一部の委員が作りますが、実行に移す主体は当然、一人一人の市民でないとけません。神埼塾で学んだ皆さんが単なる座学で終わるのではなく、学んだことを、人のため、地域のために活かしたらどうでしょうか。

NPOという特定非営利活動法人があります。これにはまちづくりをテーマにしているものも多いし、基本的に誰でも会員になれます。NPOに入会して活動する手もあります。



昔のクリークが残る姉川城跡一带



神埼宿の拠点施設として期待される旧福成歯科跡

神埼にも重要文化景観候補

文化庁が全国からリストアップした重要な文化的景観の候補地の中に、神埼市の姉川城跡や直島城跡と周辺クリーク、ハンギーに乗っての菱の実採りの光景があります。どこの地域でも、県や市の重要な文化的景観に指定して、保全しながら活用するのが可能な時代です。神埼市にはそれがたくさんあります。

ただ、農村で言えば、農業が元気でなかったら、耕作放棄地が広がり、農村の風景は荒れていきます。城下町や街中では商業が衰退して空き家だらけになっています。衰退した本来の産業を振興しながら、観光、ツーリズムと結びつけることによって、

新たな商業や農業が展開される時代になっています。

農村や田んぼには四季の風景や農産物があり、自然や人とのふれあいを楽しみながらいろいろな体験ができます。迎える側も、普段の当たり前の暮らしを都市住民に提供すればよいので、お互いが無理をせずに行うツーリズムとして持続的です。

歴史文化景観を保存、活用する主体として、地域力が必要です。蕨野の棚田では、農業の担い手は定年退職のリタイア組です。そんな人たちが重要な文化的景観の中で、春の菜の花ウォーク、初夏の早苗ウォーク、秋の菜の花まきなどのイベントを通じて福岡県域からたくさんの人を集めています。

本音は5,315,000円の「蕨野の棚田米」を売ることにあります。非日常的な体験を求めるリピート客が多いし、お金になるので蕨野の人たちはイベント疲れしていません。歴史文化遺産を活かした地域づくりは、そうした経済活動に結びついて初めて持続します。

市民ぐるみで進めよう

こうしたまちづくりには、行政の場合、建設部局や商工業、文化財、地域振興行政など全部が連携して進めることが最大のポイントです。そこに農家や観光、歴史に興味を持つあらゆる市民が集まる、市民ぐるみでまちづくりができる可能性があります。そうした活動を通じて自分たちの持っている地域イメージが固まり、活動の成果を実感すること、地域への誇り、アイデンティティ

が生まれます。

もう、大型バスによるツーリズムは時代遅れです。神埼の場合、城原川のウォーキングだけでなく、仁比山の農村地帯を歩いたり、もつと奥の眼鏡橋まで行くなど、あちこちを歩き回るツーリズムコースを設定し、車を降りて歩いてお金落ちる仕組み、本当の意味でのフットパス・ツーリズムに取り組んで欲しいと思います。



菱の実採りの光景

先人が残したせっかくの歴史文化資源としての景観ですから、みんなで守り活かすための仕組みづくりに知恵を出し、汗をかきましょう。

〔神埼塾の講演から〕の連載は今回で終了です。

◎問い合わせ先

神埼市役所 市長公室
☎3710102